



ひさかじま しゅうらく 10 久賀島の集落

10. Villages on Hisaka Island

「久賀島の集落」は、潜伏キリシタンが信仰の共同体を維持するに当たり、どのような場所を移住先として選んだのかを示す5つの集落のうちの一つである。

18世紀後半以降、外海地域から各地へ広がった潜伏キリシタンの一部は、五島藩が積極的に久賀島に開拓移民を受け入れていることを知り、既存の集落と共存できそうな場所として選んで移住し、漁業や農業で彼らと互助関係を築きながら、ひそかに共同体を維持した。

解禁後はカトリックに復帰し、島内の各集落に教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



撮影：池田勉

久賀島の中央部にある大開集落では、潜伏キリシタンが既存の仏教徒の集落の周辺部に移住し、各種の作業で協働しながら水田を拓いていった。このような潜伏キリシタンと仏教徒の互助関係は久賀島の各地でみられた。



五輪集落は、久賀島の他の集落からは隔絶された場所に、潜伏キリシタンが移住して形成した小規模な集落

である。解禁後はカトリックに復帰したが、立地環境や財政的な理由から自力での教会堂建設が困難であったため、久賀島で最初に建てられた教会堂である浜脇教会堂が、1931年の改築により解体される予定であったものを、五輪集落が譲り受け移築した。